

## 工学部物質工学科と生産工学科がJABEEの認定を受ける

JABEE(日本技術者教育認定機構)は、大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定(Professional Accreditation)制度を実施する外部機関(非政府団体)です。

工学部では平成14年度に物質工学科が、化学および化学関連分野(機能物質化学大講座・化学生命工学大講座・環境エネルギー安全工学大講座は応用化学コース、化学システム工学大講座は化学工学コース)の技術者教育プログラムとしてJABEEに認定されました。平成16年度には生産工学科が実地審査を受け、機械および機械関連分野の技術者教育プログラムとして認定されました。写真は生産工学科に送られてきたJABEEの認定証です。これにより物質工学科では平成15年3月以降の、生産工学科では平成17年3月以降の卒業生が技術士第一次試験を免除されることになりました。

JABEEはアメリカ、ヨーロッパやアジアにおける同等の教育認定機構との相互認証を進めており、平成17年6月15日のワシントン・アコード総会において、第9番目の、また非英語圏から初めての加盟組織と認められました。その結果、JABEEによる認定は当該教育プログラムが「国際的に通用する技術者の育成」を担保することになりました(詳細はJABEEのホームページ <http://www.jabee.org> を参照)。物質工学科と生産工学科の教育プログラムが世界的な水準を満たしているとみなされ、大変喜ばしいと考えています。



## 講義棟トイレの整備

トイレは人間の生活に欠かせない重要な生活環境のひとつです。近年、デパートや駅での「トイレづくり作戦」が話題になっていることから分かるように、トイレでの顧客への快適性の提供が重要な営業戦略のひとつにもなっています。さらに、ハートビル法や交通バリアフリー法により、いわゆる「多機能トイレ」が町なかに多数整備されてきて、障害者のみならずすべての人々の多様なニーズに応えるトイレづくりが盛んになっています。いまや、トイレは単なる排泄の場としての機能を超えて、快適な生活環境の整備も欠かせない課題です。本学においても講義室の冷房化やキャンパスのバリアフリー化など、生活環境づくりが徐々に進められています。

しかし本学が現在のキャンパスに移転統合して30年以上、キャンパスにおけるトイレ環境の整備について議論

されたことがまったくないままに放置されてきたと言われて良いでしょう。事実、薄汚れたり、配管の腐食がみられたり、故障が少なからずあったりします。平成15年12月に行われた工学部物質工学科の学生アンケートにおいてトイレに関する問題が指摘されているのも当然といえます。

こうした背景のもと、工学府経営企画会議での議論を発端として、青木博文工学部主事からの要請を受けるかたちで、建築学教室・建築計画研究室のボランティアグループが中心となって本学キャンパスにおけるトイレのリニューアルに関する調査を実施し、平成16年10月にリニューアル提案書をまとめるに至りました。

これをもとに平成17年6月には講義棟A棟の男子トイレが実際にリニューアルされ、少しずつではありますがキャンパスのトイレ環境の整備が進みつつあります。も